

平成13年5月28日
原子力安全対策課
(13-17)
<15時30分記者発表>

新型転換炉ふげん発電所の原子炉手動停止について (ヘリウム循環系配管の点検状況)

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所（新型転換炉；定格出力16.5万kW）は、平成13年1月19日から本格運転中であつたが、主排気筒トリチウム濃度の分析値*¹が1月下旬以降、通常値より高い傾向を示していることがわかり、4月中旬以降、トリチウムの放出源の調査を行った。

この結果、アニュラス内のヘリウム循環系配管*²からの漏えいが疑われ、5月15日に当該配管をビニールシートで覆ったところ、アニュラス内のトリチウム濃度が低下したことから、当該配管からの漏えいと判断し、5月23日20時から出力降下を開始し、翌24日5時03分に原子炉を停止した。

今回の事象による環境への放射能の影響はない。

[平成13年5月23日記者発表済]

アニュラス内にあるヘリウム循環系配管について、石けん水を用いた漏えい検査を実施した結果、原子炉補助建屋側から原子炉格納容器側への戻り配管の4箇所、溶接部近傍で漏えいが認められた。これらの漏えい箇所について目視検査したところ、1箇所、ひび割れ状の欠陥が確認された。

今後、詳細調査を行うため、戻り配管を切断する予定である。

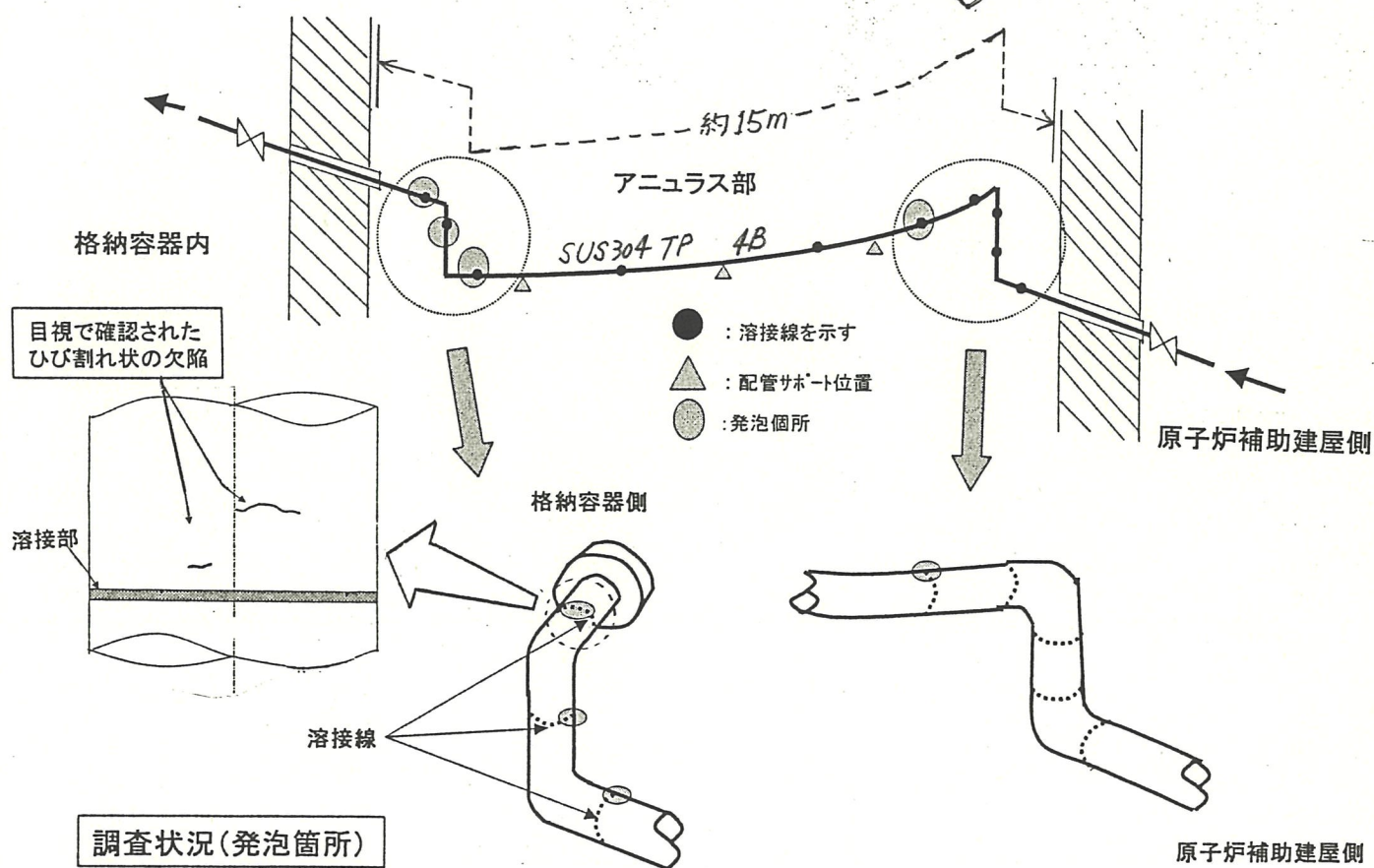
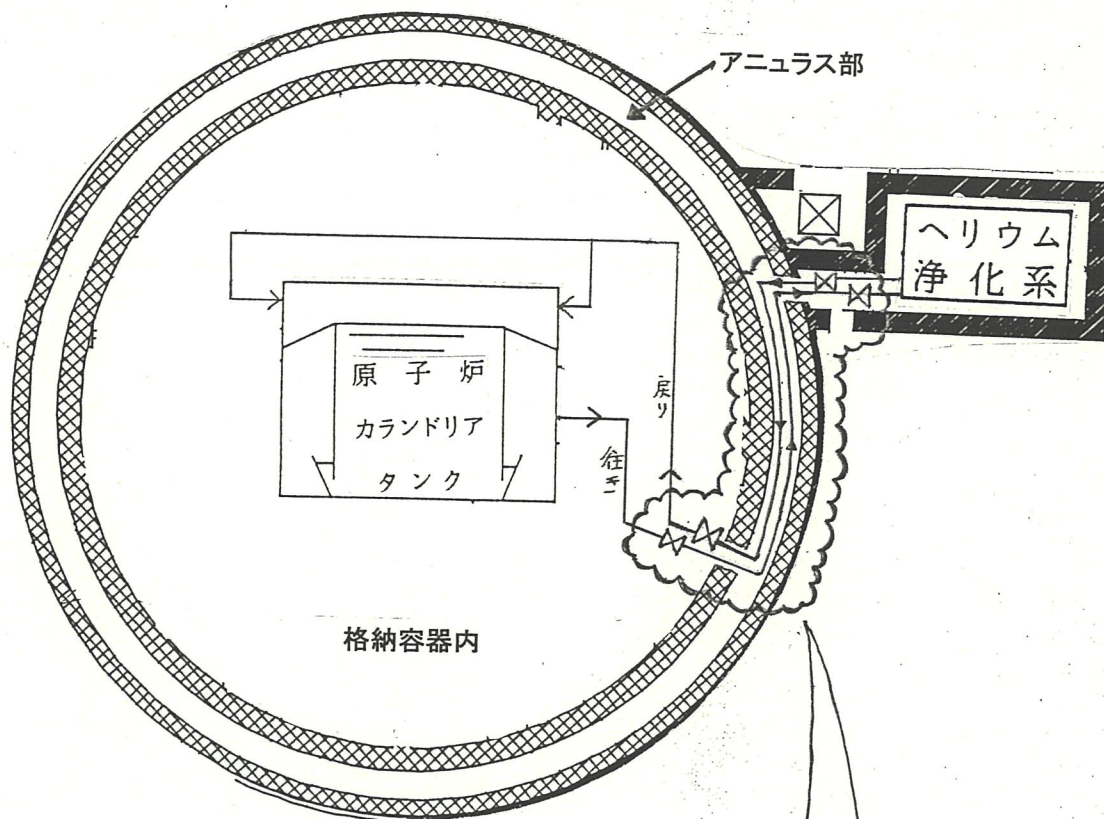
*1：排気筒からのトリチウム（三重水素）の放出量を管理するために、排気中の水分を連続して回収し、1週間に1度分析している。

トリチウム放出濃度 通常値： $2 \sim 3 \times 10^{-4} \text{ Bq/cm}^3$
今回値：約 $5 \times 10^{-4} \text{ Bq/cm}^3$

*2：減速材として用いられている重水のカバーガス（ヘリウム）を循環させる系統。アニュラス内には、原子炉補助建屋から原子炉格納容器側にヘリウムを戻す配管と、原子炉格納容器から原子炉補助建屋側にヘリウムを出す管の2本が存在する。

(経済産業省によるINESの暫定評価尺度)

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0—	0—



ヘリウム循環系配管調査結果